

# 大地震

市内で震度6以上の地震が発生する確率は、今後30年間で約80パーセントといわれています。

大地震が起こると、多くのけが人の発生と医療機関の被災により、普段と同じような治療を受けることが困難になります。医療機関では、1人でも多くの命を救うため、重症度に応じて治療する役割を分担します。判断目安を参考に、「のぼり旗」のある医療機関を受診してください。

## もしけがをしてしまったら



### 極めて軽症

皆さんの**自助・共助**による応急手当を行ってください。消毒液やガーゼ付きばんそうこう、ガーゼ、包帯などの救急用品を備蓄しましょう。



#### 判断目安の一つ

負傷などしていても歩行できる



### 軽症

#### 受診先

近くの**診療所**へ

港北 医療機関 **検索**



診療中

横浜市

黄色ののぼり旗が目印

#### 判断目安の一つ

負傷などで歩行できない(重症者以外)



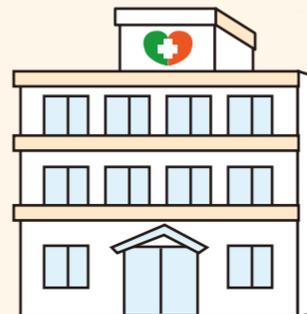
### 中等症

#### 受診先

**災害時救急病院**へ

菊名記念病院(菊名4-4-27)など市内計99か所

横浜市 災害医療 **検索**



診療中

横浜市

#### 判断目安の一つ

負傷などで歩行できず、生命に危険\*がある  
\*意識が低下している、呼吸が浅い、脈が触れない、手足が冷たい、大出血など

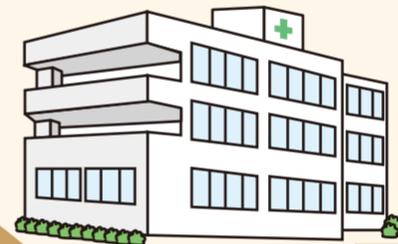


### 重症

#### 受診先

**災害拠点病院**へ

横浜労災病院(小机町3211)、済生会横浜市東部病院(鶴見区下末吉3-6-1)、昭和大学横浜市北部病院(都筑区茅ヶ崎中央35-1)など市内計13か所



診療中

横浜市

赤色ののぼり旗が目印

### どうして重症度により受診する医療機関が異なるの？

災害拠点病院や災害時救急病院に軽症者が殺到すると、中等症や重症者の治療ができなくなり、救える命が救えなくなる可能性があるからです。

災害時のそれぞれの医療機関では、限られた資源で1人でも多くの人の命を救うため、重症者の治療が優先されます。地域の医療機関を知っておきましょう。

港北 医療機関 **検索**



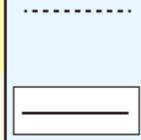
©横浜市港北区ミズキ

災害時はおくすり手帳がとても便利だよ。

いつもと違うお医者さんでも、おくすり手帳を見せるだけで、薬のアレルギーや普段処方されている薬を伝えることができるよ。

調剤薬局などでもらえるので、保険証と一緒に持ち歩こうね。

おくすり手帳



# 2017年7月1日からの災害医療体制

## 6月30日まで

医師や薬剤師などが9か所の地域防災拠点に参集し、医療救護隊として地域防災拠点を巡回

## 7月1日から 次の二つの方法により医療を提供

- ①診療可能な病院と診療所は「のぼり旗」を、開局可能な薬局は「フラッグ」を掲出し、速やかに診療などを開始
- ②あらかじめ指定された医師などのほか、被災して診療や開局ができない医師なども休日急患診療所に参集し、医療救護隊として地域防災拠点を巡回

区では、災害時におけるより望ましい医療体制について、訓練や連絡会議を開催し、検証を行ってきました。その結果、診療所などの施設を災害時も活用することで医師などの移動時間が節減され、より多くの人へ医療を届けることができる体制としました。使い慣れた医療器材を使用でき、必要に応じた治療も行えます。

体制変更後も、これまで通り医療救護隊を必ず編成し、地域防災拠点を巡回します。

## 病院

## 診療所

診療可能な病院と診療所は赤色か黄色の「のぼり旗」が目印です。重症度により受診する医療機関が異なります。  
▶詳細は6ページで

## 医療救護隊

医師や薬剤師などで編成される医療救護隊が、地域防災拠点を巡回します。重症度や緊急度の判断と、簡単な応急処置をします。

### 地域防災拠点とは

倒壊などにより、自宅を使用できなくなった人が避難生活をする場所です。

地域防災拠点で避難生活をしなければならなくなった場合に備えて、地域防災拠点訓練に参加しましょう。

▶地域防災拠点訓練の実施日は

[港北防災拠点](#) [検索](#)



## 薬局

開局している薬局は黄色の「フラッグ」が目印です。

# 揺れから身を守る

大地震によるけがを防ぎましょう。自身がけがをしないことは、必要な人に医療資源を届けることにもつながります。

▶防災関連記事を2ページにも掲載

### けがを防ぐポイント①

## 大地震に備える

大地震発生時、家具は凶器となり、ガラスの破片が散乱し、停電が発生します。

家具に転倒防止器具を取り付ける

枕元に履物を置く

懐中電灯を準備する



### けがを防ぐポイント②

## 地震発生の瞬間に身を守る

大きな揺れを感じたら、すぐに行動しましょう。

まず低く

→ 頭を守る

→ 動かない

倒れそうな物から離れる

